

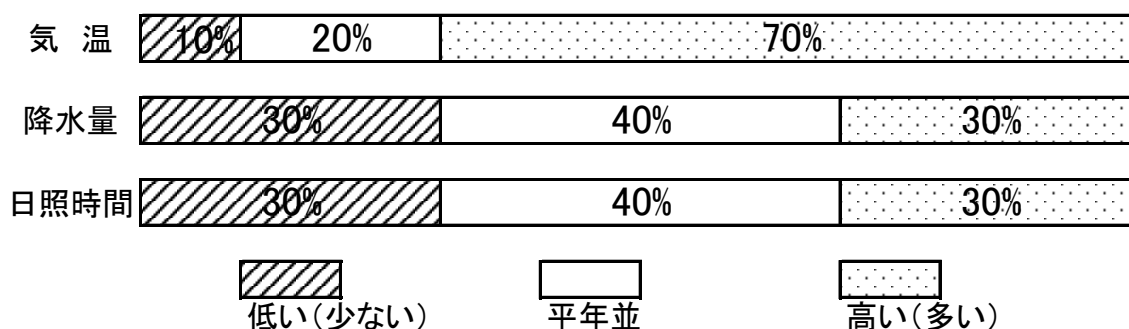
平成29年度 病害虫発生予察情報

発生予報第5号（7月下旬～8月上旬）

平成29年 7月14日
島 根 県

予報の概要					
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	やや少ない		
		穂いもち	やや少ない		
		紋枯病	平年並		
		白葉枯病	やや少ない		
		縞葉枯病	平年並		
		ヒメトビウンカ	多い		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない
				黒星病	少ない～やや少ない
シンクイムシ類	平年並				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	平年並				
うどんこ病	やや少ない				
カキ	チャノキアザミヤ		やや少ない～平年並		
	果樹全般		カメムシ類	やや少ない～平年並	

中国地方1か月予報(7月15日～8月14日・広島地方气象台7月13日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

- ① 7月上旬の巡回調査（70ほ場）では、発生を認めなかった（平年の発生ほ場率は5.1%、発病株率は1.4%）。
- ② 県内で「コシヒカリ」「きぬむすめ」の一部ほ場で発生が確認されている。
- ③ 向こう一か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

- (2) 穂いもち
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ①伝染源となる葉いもちの発生量はやや少ないと予想される。
 ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。
- (3) 紋枯病
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①7月上旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率は2.9%(平年8.2%)、発病株率が0.1%(平年0.8%)とやや少ない。
 ②向こう一か月の気象は、本病の発生に助長的である。
- (4) 白葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内常習発生地帯
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ①7月上旬の巡回調査(70ほ場)で発生を認めなかった。
 ②近年、発生が少ない。
 ③向こう一か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。
- (5) 縞葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①媒介虫であるヒメトビウンカの発生量が多いと予想されるが、保毒虫率は低い。
- (6) ヒメトビウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 多い
 予報の根拠
 ①7月中旬の巡回調査では、捕獲数は13.2頭/50株(平年2.3頭)、発生ほ場率は73.9%(平年32.2%)で発生量は平年に比べ多い。
 ②4月中旬の越冬世代成幼虫と6月下旬の成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (7) ニカメイチュウ(第1世代)
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯(出雲市)における誘殺数は6頭(平年38.9頭)で平年と比べやや少ない。また、フェロモントラップ(出雲市)における誘殺数は平年並みである。
 ②7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.2%(平年7.8%)、被害株率は0.1%(平年0.3%)で発生量は平年並みである。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (8) ツマグロヨコバイ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①7月中旬の巡回調査では、捕獲数は5.2頭/50株(平年13.5頭)、発生ほ場率は37.0%(平年64.9%)で発生量は平年と比べやや少ない。
 ②予察灯(出雲市)における誘殺数は25頭(平年32.4頭)で平年並みである。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (9) セジロウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①初飛来は5月23日に益田市の予察灯で確認された。その後、7月5日に出雲市の

粘着誘殺灯でも誘殺が確認された。

② 7月中旬の巡回調査では、捕獲数は15.0頭/50株（平成70.6頭）、発生ほ場率は50.0%（平成72.6%）で発生量は平年に比べやや少ない。

③ 向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 予察灯（出雲市）への飛来は認められない。

② 7月中旬の巡回調査では、捕獲数は0頭/50株（平成0.06頭）、発生ほ場率は0%（平成2.3%）で発生量は平年並みである。

③ 向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 予察灯（出雲市）、フェロモントラップ（出雲市）への飛来は認められない。

② 7月中旬の巡回調査で成虫が確認された。幼虫の発生ほ場率は0%（平成4.2%）、被害株率は0%（平成0.1%）で発生量は平年に比べやや少ない。

③ 向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 7月13日に収穫している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、斑点米カメムシ類合計で平均虫数は9.4頭/20回振り（平成6.7頭）、発生ほ場率は85.7%（平成78.1%）と平年に比べやや多い。

② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で11.7頭/20回振り（平成7.0頭）、発生ほ場率は89.5%（平成64.7%）で発生量は平年に比べやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。

③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率4.0%（平成6.8%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。

② 向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は0.3%（平成1.3%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。

② 向こう一か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数はやや少ない。

② 向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハダニ類

予報内容

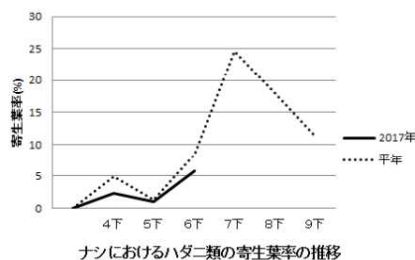
発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の発生量は寄生葉率5.8%（平年8.4%）、寄生虫数7.2頭/50葉（平年19.7頭）と平年並みである（グラフ参照）。

② 向こう一カ月の気象は本種の発生にやや助長的である。



(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

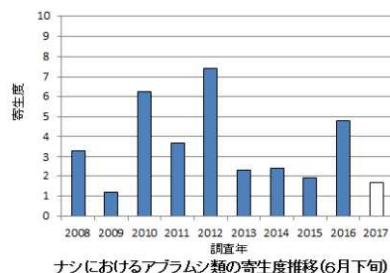
発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の寄生新梢率8.8%（平年9.3%）、寄生度4.8（平年4.0）と平年並みである（グラフ参照）。

② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。

③ 向こう一カ月の気象は本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は0.2%（平年0.4%）であり、発生量は平年並みである。

② 向こう一カ月の気象は本病の発生に抑制的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

① 露地ほ場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。

② 向こう一カ月の気象は本虫の発生にやや助長的である。

3) 果樹全般（カキ、ブドウ、ナシ等）

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域（特にナシ無袋、カキ栽培地帯）

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

① 7月第2半旬までのフェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は142頭（平年1115.7頭）とやや少ない。

② 7月2半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は128頭（平年299.1頭）でやや少ない。

③ 向こう一カ月の気象は本種の発生にやや助長的である。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/